

茅ヶ崎市・寒川町「気候非常事態宣言」表明

今できることから
“エコ活”を始めよう

近年、地球温暖化に起因する大型の台風や集中豪雨が頻発しています。世界では、この要因である二酸化炭素の排出量削減目標が掲げられ、国でも昨年「2050年までに脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。市では、持続可能な社会の実現に向けて温暖化対策を広域に推進するため、ごみや資源物の回収などの環境分野をはじめ、さまざまな取り組みで連携している寒川町と、4月1日に「気候非常事態宣言」を共同表明しました。

【環境政策課温暖化対策担当】



Designed by Freepik

2050年までに二酸化炭素排出量ゼロを目指す

地球温暖化による気温上昇に伴い、ここ数年、異常気象が発生し、各地で河川氾濫や土砂災害などが頻発しています。私たちの住む神奈川県でも、100年間で夏日は43日増え、冬日は35日減っており(右表参照)、今後猛暑などによる熱中症や豪雨災害のリスクがさらに高まったり、農作物の生産にも大きな影響が出たりすることが予想されています。

気候非常事態宣言では、「あらゆる対応策を講じ、2050年までに「二酸化炭素排出実質ゼロ」を目指す(ゼロカーボンシティ)」をはじめ、3つの項目が掲げられています。

改めて身近に起きている環境の危機を知り、これまで以上に関心を持って一人一人がエコな活動“エコ活”を実践していきましょう。



気候非常事態宣言の全文

100年間で変化した 県内の夏日と冬日

	1900年～1910年 (10年間の年平均日数)	2010年～2020年 (10年間の年平均日数)
夏日	年間約79日	年間約122日 43日増 2020年は126日
冬日	年間約38日	年間約3日 35日減 2020年は0日

※ 夏日：一日の最高気温が25℃を超えた日
 ※ 冬日：一日の最低気温が0℃未満になった日
 ※ データは気象庁横浜地方気象台から引用

一人一人のエコ活が
未来を救う!

身近なことから始めてみませんか

佐藤祐輔(環境政策課温暖化対策担当)
ちがさきエコネットのスタッフブログも担当

今日からできる!

エコバッグ、マイボトルを日ごろから携帯する

生ごみは水切りをして出す。運搬や焼却の効率をアップ

旬の野菜を選ぶ。栄養価が高く、栽培時のエネルギーも少ない

省エネルギー性能の高さで家電を選ぶ

さらにエコ活を極めよう

家電を上手に使う

- ◇炊飯器でのご飯の保温は4時間まで。電子レンジで温める方がエネルギー消費量が少ない
- ◇野菜をゆでるより、電子レンジで下ごしらえ。時間短縮とビタミンCの損失が少ない

自然由来の電気を多く販売する電力会社を選ぶ

電力会社が太陽光や風力などの自然エネルギー由来の割合が高いか確認を。電力会社の団で、料金などのシミュレーションができる場合も

ちがさきエコネットに参加しよう

市が運営する地球温暖化対策ポータルサイト。エコファミリーに登録すると、エコライフチェックや省エネクイズで、エコ活について楽しく学べます。また、毎月の環境家計簿(CO₂排出量)をグラフ化でき、家庭でのエコ活の実践に役立ちます。



ちがさきエコネット